

R8 地域発元気づくり支援金で設置を進めていくべきユースセンターについて

県民文化部こども若者局次世代サポート課

1 信州未来共創戦略～みんなでつくる 2050 年の NAGANO～に基づく県のアクション

1 若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり

1-1 若者の社会参画を促進しよう

地域ごとのユースセンター（高校生等の居場所など）の設置を促進

2 ユースセンターとは 【日本福祉大学専任講師 両角 達平氏（茅野市出身）による解説】

・若者の居場所、ユースワークの行われる場所（**法律・通知等による定義はない**）

（※）ユースワークとは、**居場所** + **参画**

- ・若者が自分の生活や人生に関するあらゆることを意思決定できるように支援し、権利を保障する活動
- ・あらゆる活動機会で、若者と共にあること

（※）ユースセンターの特徴

- ・家庭・学校でない、第3の居場所
- ・若者自身が主体的に関わっている居場所
- ・地域に影響力が発揮できている
- ・ユースワーカーがいる

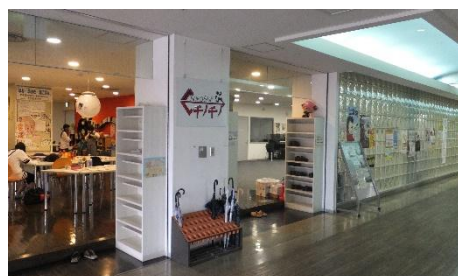
⇒ 若者(高校生等)が主体的に地域活動等を行う居場所を増やしていくことは、若者が社会に影響を与える参画の機会を設けることにもつながり、こうした取組を拡大していくことは重要。

【県内での取組事例】



「coto²（コトコト）」（須坂市）

「高校生の居場所がほしい」と立ち上がった地域の高校生有志が古民家を改修し完成させた施設。施設の運営は高校生有志により行われている。



「CHUKO らんどチノチノ」（茅野市）

中学生・高校生と市民が話し合いながら建設された施設。施設の運営は高校生等で構成される「こども運営委員会」が主体となって行われている。

3 「地域発元気づくり支援金」の重点支援対象事業の活用

・重点支援対象事業

地域ごとのユースセンター（高校生等の居場所など）の設置や活動支援に資する事業

【具体的事業例】

- ・設置に向けた取組（ワークショップ等）
- ・施設整備（既存施設の改修等）
- ・ユースセンターを活用した継続的な取組（高校生等と地域住民やセンター同士の交流を促進する取組等）

・R7 主な採択実績

申請者	事業概要	総事業費(円)	内定額(円)
特定非営利活動法人こどもの未来をかんがえる会（諏訪）	中高生の居場所作りや大人との交流の場を創出することを目的として、まるいちユースセンターを立ち上げた。利用する学生の支援強化を狙い、ユースワーカーの育成研修や、滞在環境改善を目指した断熱改修及び備品の購入を行う。	3,539,000	2,679,000

申請者	事業概要	総事業費(円)	内定額(円)
一般社団法人信州古民家再生プロジェクト（長野）	若者(10代)の自己発見や興味関心を発掘するため、ワークショップや地域で活躍する方や企業経営者等との交流会等を開催する。また、ユースワーカーとなる人材の発掘、育成を目的に、ユースワーカー育成研修プログラムを実施し、若者の活動をより支援可能な体制を整備する。	5,000,000	3,945,000

4 令和7年度の実施

ユースセンターの設置促進を加速化するため、令和7年8月に「私のアクション！未来のNAGANO 創造県民会議」にプロジェクトチーム（以下「ユースセンターPT」）を立ち上げ、ユースセンターの意義・必要性や設置を進めていくべきユースセンターの機能・役割等について検討中。

5 令和8年度「地域発元気づくり支援金」での留意事項

ユースセンターPTでの議論等を踏まえ、重点支援対象事業で支援すべきユースセンターの考え方（機能・役割等）を以下のとおり整理しましたので、業務の参考にしてください。

（※）あくまで現時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

【ユースセンターの考え方（機能・役割等）】

- ① 性別、背景、目的の有無（※1）に関わらず、若者（原則、高校生等）なら誰でも利用できる居場所（※2）であること【必須】
 - （※1）「目的の有無に関わらず」とは、その場所にいるだけでも（何もしなくても）良いことが許容されることを指す。
 - （※2）週1日以上開館している。1日限りのイベントや夏休み期間など、特定の時期に限定した設置・運営は対象外。
- ② 若者の主体性・社会性を育む環境（※3）を整備していることが望ましい【推奨】
 - （※3）想定する環境は以下のとおり。
 - ・地域に関わる活動（地域住民との交流イベント、地域の課題解決に向けた提案・実践など）を行っている
 - ・若者がユースセンターの運営等に関わっている 等
- ③ ユースワーカー（※4）を配置していること【必須】
 - （※4）資格等は持たないが、ユースセンターを利用する若者に寄り添い、若者のやりたいことを支援・後押しする職員（スタッフ）。
- ④ ユースセンターでの活動の情報を発信することが望ましい（※5）【推奨】
 - （※5）想定する発信内容等は以下のとおり。
 - ・若者がユースセンターを利用したいと思うように、高校生等へ広報（SNS等）
 - ・若者がユースセンターを過ごしている姿を地域の人に紹介（リーフレット、新聞広告等）

（事務担当）

担当 次世代サポート課 次世代企画係 浅川、土屋
 電話: 026-235-7207(直通)
 026-232-0111(代表)内線 2854
 E-mail shoushika@pref.nagano.lg.jp

ユースセンターPTでの議論と令和8年度当初予算に向けた検討状況について

長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課

1 ユースセンタープロジェクトチーム（PT）での議論

（1）目指す成果

- ・県内に設置を進めていくべきユースセンターの機能・役割の整理
- ・県内関係者にユースセンターの意義や必要性を理解してもらうための方策検討
- ・ユースセンターの設置促進や活動の活性化を図るための方策検討 など

（2）意見交換の内容（主な意見）

①第1回ミーティング（テーマ：県内のユースセンターの現状など）

- ・ユースセンターは、若者の挑戦を後押しする場所であり、若者と地域・大人をつなぐハブとしての役割もある。
- ・若者が主体的に運営等に関わることでその居場所に愛着が生まれる。
- ・運営を継続していくうえで、施設設置にかかる初期費用や人件費など資金面の課題は大きい。
- ・行政からの支援だけではなく、地域や民間との連携による持続可能な運営モデルを模索したい。
- ・ユースワーカーは、ユースセンターの機能を支える重要な存在。
- ・多様な若者に対応できるユースワーカーの育成制度や外部との連携ネットワークの構築が必要。

②第2回ミーティング（テーマ：ユースセンターの設置促進の意義・目的など5つ）

（ア）ユースセンターの設置促進の意義・目的

- ・居場所的機能や社会参加の促進もあるが、いざとなった時に相談・信頼できる大人との関係構築も目的になる。
- ・若者目線では、何もしなくてもよい、何かをやりたくなったら大人が手伝ってくれる環境がある。大人目線では、地域との交流促進や自殺率の低下も目的（効果）になる。

（イ）ユースセンターの定義（機能・役割）

- ・運営に関わることができたり、地域との活動を行うことができたりする場所であり、何もしなくてもよい場所でもある。

（ウ）ユースセンターの設置を理解してもらうには

- ・ユースセンターの必要性を理解してもらうには、そこで過ごす若者の姿を見せることがよい。
- ・ユースセンター設立前から設立後まで、地域の方々にも役割を担ってもらい、見るだけではない一歩踏み込んだ関わりの上で理解ある人を増やしていくことが必要。

（エ）ユースワーカーとはどんな存在か

- ・信頼できる身近な存在、社会との最初の接点。社会とのつながりの可能性を広げてくれる大人。
- ・画一的なユースワーカー像がないところが難しい。基本的な共通事項はありつつも、その先はユースワーカーごと多様でよい。

（オ）ユースセンターの設置促進のゴール

- ・ユースセンターで過ごした若者が、ユースワーカーになる。自然な世代交代を繰り返し、時代に合った変化をしながら、その時の若者にとって「居心地のよい居場所」が存在していく。

2 令和8年度当初予算に向けた検討状況

県内でのユースセンター設置の機運がさらに高まるよう、自治体等向けセミナーやユースワーカー交流会の開催等について、こども若者局での予算化を検討中。